

浸透性吸水防止材

アクアシール[®]シリーズ

未来をか・た・ちにする



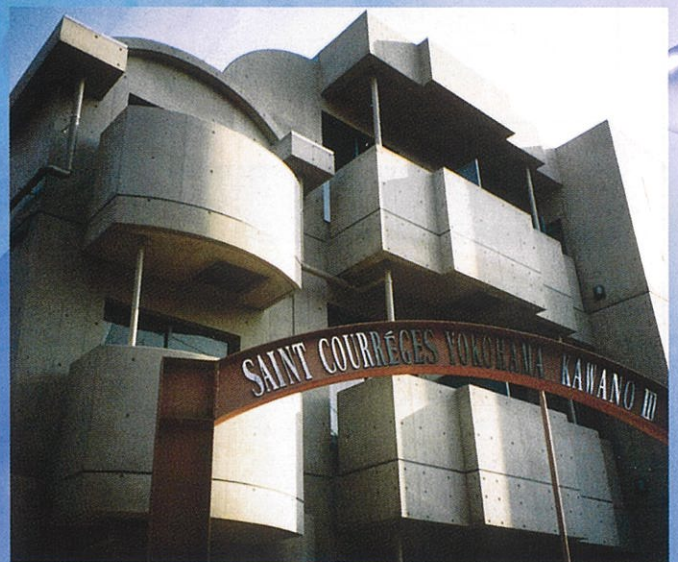
アクアシール[®]シリーズ

アクアシールは、シリコン系の浸透性吸水防止材です。
コンクリートなど吸水性のある材料に塗布浸透させることにより、
通気性を持った吸水防止層を形成します。
この吸水防止層は、水による種々の弊害から躯体を保護します。

吸水防止
のちから

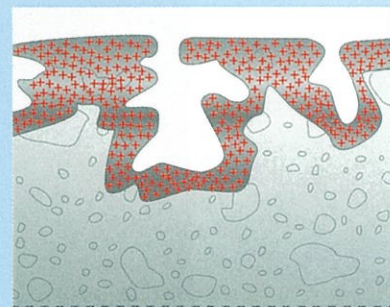
浸透性
のちから

通気性
のちから



浸透性

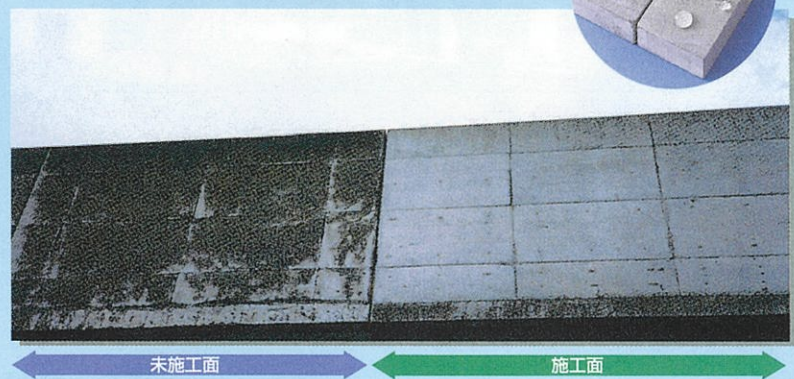
アクアシールは、コンクリート等の躯体表面に塗布するだけで、内部に浸透し、コンクリート表層部に吸水防止層(撥水層)を形成します。



アクアシール吸水防止層の模式図

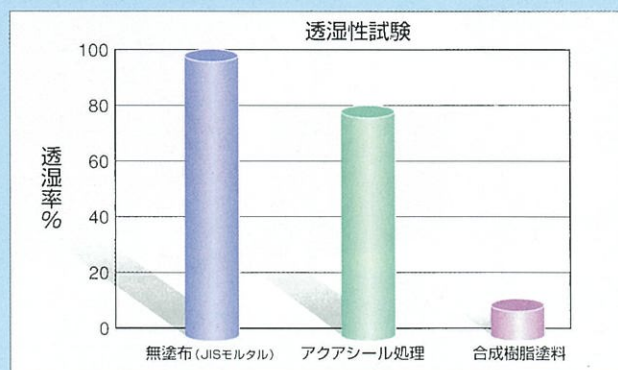
吸水防止性

アクアシールがコンクリート表層部に形成する吸水防止層(撥水層)は、優れた吸水防止性を発揮します。



透湿性

躯体内部に浸透したアクアシールは毛細管を塞いだり、塗膜を作らないため、透湿性に優れています。



※記載データは代表サンプルの弊社試験値であり、規格値・保証値ではありません。

劣化因子浸入抑制

コンクリート躯体内部への水の浸透を抑制することにより、鉄筋の発錆や凍害、塩害、アルカリ骨材反応などの劣化現象を抑制します。



防汚性

吸水率を低減させることにより雨水とともに侵入する塵、ほこりなどの汚れがつきにくくなります。



施工直後



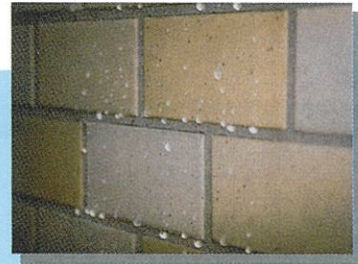
施工5年後



施工18年後

意匠性保持

アクアシールは浸透性のため、躯体の意匠性(素材感)を損なうことはありません。



白華抑制機能

アクアシールの吸水防止層が水の移動を1/10に低減させることにより躯体内部からの白華(エフロレッセンス)の析出を抑制します。

アクアシール未処理



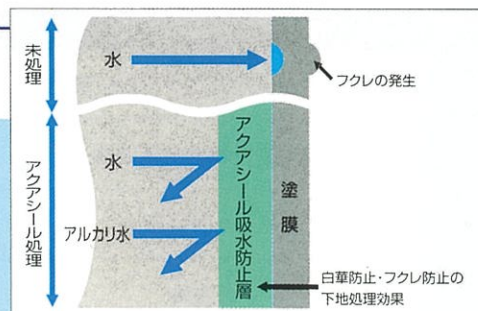
アクアシール処理



シーラー機能

塗料や仕上げ材の下塗り(シーラー)として使用することにより、躯体内部からのアルカリ水等による塗膜のフクレやハガレの現象を低減します。

※ 上塗りが水性の場合、ハジキ等ができる場合があります。必ず試し塗りを行って使用の可否を確認ください。



浸透性吸水防止材 (溶剤タイプ)

アクアシール[®] 200S

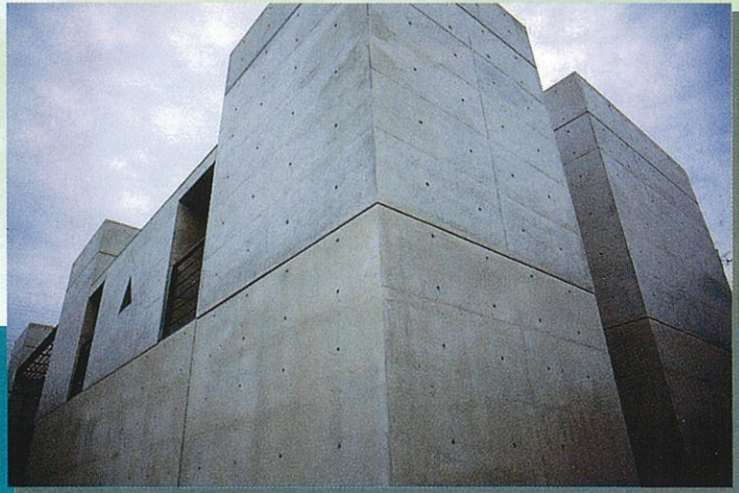


**打放しコンクリート、
モルタル、ブロック等の
吸水防止材です。**

主成分にシラン系オリゴマーを使用しています。

20年以上の販売実績があります。

ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆登録
(日塗工登録番号 D01207)



標準仕様

打放しコンクリート面

工程	使用材料	塗布量 (ℓ/m ²)	施工間隔 (20℃)	塗布方法
1	アクアシール200S	0.1~0.12	追っかけ塗り	はけ、ローラー
2	アクアシール200S	0.1~0.12	追っかけ塗り	はけ、ローラー
3	アクアシール200S	0.1~0.12	6時間以上乾燥養生	はけ、ローラー

塗装下地面

工程	使用材料	塗布量 (ℓ/m ²)	施工間隔 (20℃)	塗布方法
1	アクアシール200S	0.08~0.12	追っかけ塗り	はけ、ローラー
2	アクアシール200S	0.08~0.12	6時間以上乾燥養生	はけ、ローラー
3	各種塗装材、吹付材メーカーの標準仕様に準じて施工してください。			

用途

※上塗りが水性の場合、ハジキ等ができる場合があります。必ず試し塗りを行って使用の可否を確認ください。

適用基材	標準塗布量
コンクリート、モルタル、セメント系二次製品 等	壁面部 0.3~0.4ℓ/m ² (約45m ² /16ℓ缶) 平面部 0.3~0.6ℓ/m ² (約30m ² /16ℓ缶)
吸い込みが大きい基材 ALC 素焼きタイル ブロック レンガ 等	壁面部 0.5~0.6ℓ/m ² (約30m ² /16ℓ缶)
塗装・吹付下地用	壁面部 0.15~0.25ℓ/m ² (約80m ² /16ℓ缶)

種類と性状

品名	アクアシール200S
成分	ポリアルキルアルコキシシロキサン
外観	無色または淡黄色液体
比重	0.80±0.05 (20℃)
臭気	石油臭
引火点	30℃~40℃

適用法規

品名	アクアシール200S
労働安全衛生法	危険物 (引火性の物) 有機則 (第3種有機溶剤)
消防法	危険物第4類第2石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)

使用期限

30℃以下密封状態で保管した場合1年

■施工方法

事前確認

- 1 新築か補修かによって、また基材の種類によって施工の工程、数量や養生等に影響があるので十分に確認してください。(補修部位等、吸い込みの少ない場合は注意が必要)
- 2 アクアシール200Sを塗布した際、稀に風合い変色および樹脂等のうきが発生することがあります。これを防ぐための事前確認および塗布量決定のための試し塗りを必ず実施してください。

前処理

- 1 塗布対象面は、汚れ、油分などを除去し、清浄かつ乾燥した状態にしてください。(含水率目安:ケット水分計6%以下)
- 2 塗布対象面のクラック、ジャンカ、欠損等のある場合は、色合いおよび吸い込みが同程度のモルタル補修材で補修し、乾燥・硬化した状態にしてください。
- 3 溶剤の影響を受ける可能性のある周辺および非塗布面に対しては必ず養生してください。
- 4 風向き、気温等の影響および塗装の方法により臭気が強く感じられることがありますので臭気対策のための養生を行ってください。

施工

- 1 アクアシール200Sは希釈せずそのまま使用してください。
- 2 塗布方法は、原則としてローラーで施工してください。(スプレーで塗装される場合は、霧散しますので周辺の養生はより確実に行ってください。)
- 3 アクアシール200Sは乾燥すると塗布面と未塗布面との区別が付きにくくなります。塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布してください。
- 4 アクアシール200Sを塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度に厚塗りせず3回程度に塗り重ね、所定の量を確実に塗布してください。(スプレーで塗装される場合は、霧散しますので2~4割程度多めの量を塗布してください。)アクアシール200Sは浸透型ですので追っかけ塗りが可能です。
- 5 アクアシール200Sの塗布面は20℃、6時間以上乾燥養生してください。

検査

- 1 完了したアクアシール200Sの塗布面(20℃、48時間以上の乾燥養生後)に水をかけ、撥水状態と30秒から1分以内に水濡れが出ないことを確認してください。
- 2 塗布もれ箇所については、乾燥後に所定の量を再度塗布してください。

※施工にあたっては、必ず施工手順書をご請求ください。ホームページよりプリントアウトも可能です。(http://www.aquaseal.jp)

■施工上の注意事項

- アクアシールは、コンクリート等の基材に含浸して吸水防止層を形成し、性能を発揮する製品です。その含浸の程度は基材、基材の表面状態により変化することがあります(補修部位等、吸込みの少ない場合は注意が必要)。また塗布した際、稀に風合い変色することがあります。これらを防ぎ機能を十分発揮させるため、事前の試し塗りによる塗布量の決定と仕上がり、効果の確認を必ず実施してください。**

アクアシール200S

- 1 引火性液体ですので、火気および高温物のあるところでは使用しないでください。
- 2 取り扱い中はできるだけ皮ふに触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク、耐油性保護手袋、保護眼鏡、前掛等を着用してください。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。取り扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 3 希釈せずそのまま使用してください。
- 4 気温5℃以下、風速5m/秒以上、降雨、降雪の場合の施工は避けてください。また、施工中に降雨、降雪等にあった場合は施工を中止し、シート養生をして塗装面を保護してください。
- 5 塗布対象面以外の箇所(植物、金属、ガラス、木材、コーキング材等)は、養生等を施し、付着させないようにしてください。
- 6 ガラス面、金属面、プラスチック面等に付着したときは、速やかに除去してください。(固着すると全く除去できなくなる場合がありますので十分に注意してください。)
- 7 塗布方法は、施工部位を考慮して適切なものを使用してください。
- 8 塗装機器、塗装器具等は使用後速やかにシンナー等で洗浄してください。
- 9 アクアシール200Sの塗布後6時間(20℃)は水がかからないように養生してください。(養生時間内に雨水等がかかると白亜化や性能不良を引き起こす原因となる場合がありますので十分に注意してください。)
- 10 本品は、石油・シンナー臭がします。施工にあたっては作業者に注意を促すとともに周辺環境にも留意してください。特に近隣の居住者には施工の前に事前の説明および了承を得るようにしてください。

浸透性吸水防止材(溶剤タイプ)

アクアシール® 500S



タイル・石材および目地部の吸水防止材です。

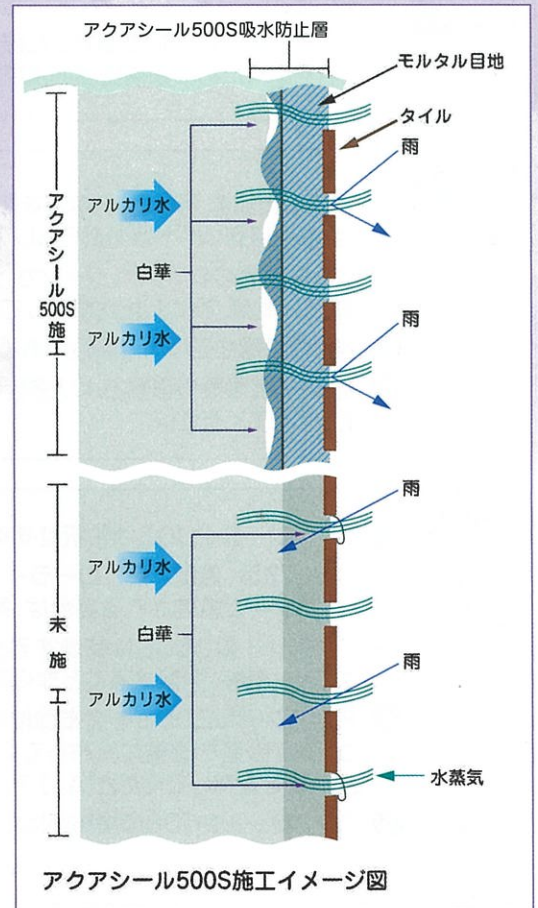
超浸透性の特殊樹脂を使用していますのでタイル・石材表面の風合いをほとんど損ないません。

浸透性のため、フクレ、ハガレの心配がありません。

タイル・石材およびモルタル目地に吸水防止機能を付与させることにより、劣化、凍害、汚れ、白華(エフロレッセンス)を抑制します。

ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆登録

(日塗工登録番号 D01208)



標準仕様

工程	使用材料	塗布量 (ℓ/m ²)	施工間隔 (20℃)	塗布方法
1	アクアシール500S	0.08~0.12	追っかけ塗り	はけ、ローラー
2	アクアシール500S	0.08~0.12	6時間以上乾燥養生	はけ、ローラー

タイル・石材の種類および目地の形状等により塗布量が変わりやすいので事前の試し塗り等で塗布量を決定してください。

用途

適用基材	標準塗布量
磁器質タイル、石器質タイル、陶器タイル、各種石材(鏡面仕上げは除く)および目地	壁面部 0.16~0.24ℓ/m ² (約75m ² /16ℓ缶)

タイル・石材面専用の製品ですが、稀に(ラスター、パール調、施釉、鏡面、親水処理製品等)変色の可能性があります。これを防ぐために事前の試し塗りを必ず実施してください。

種類と性状

品名	アクアシール500S
成分	アルキルアルコキシシラン
外観	無色または淡黄色液体
比重	0.80±0.05 (20℃)
臭気	石油臭
引火点	40℃~45℃

適用法規

品名	アクアシール500S
労働安全衛生法	危険物(引火性の物) 有機則(第3種有機溶剤)
消防法	危険物第4類第2石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)

使用期限

30℃以下密封状態で保管した場合6ヶ月

■施工方法

事前確認

- 1 新築か補修かによって、また基材の種類によって施工の工程、数量や養生等に影響があるので十分に確認してください。(補修部位等、吸い込みの少ない場合は注意が必要)
- 2 アクアシール500Sを塗布した際、稀に風合い変色および樹脂等のうきが発生することがあります。これを防ぐための事前確認および塗布量決定のための試し塗りを必ず実施してください。

前処理

- 1 塗布対象面は、汚れ、油分などを除去し、清浄かつ乾燥した状態にしてください。(含水率目安:ケット水分計6%以下)
- 2 塗布対象面のクラック、ジャンカ、欠損等のある場合は、色合いおよび吸い込みが同程度のモルタル補修材で補修し、乾燥・硬化した状態にしてください。
- 3 タイル・石材面等に浮きがある場合はあらかじめ樹脂注入等で処理し、乾燥・硬化した状態にしてください。
- 4 溶剤の影響を受ける可能性のある周辺および非塗布面に対しては必ず養生してください。
- 5 風向き、気温等の影響および塗装の方法により臭気が強く感じられることがありますので臭気対策のための養生を行ってください。

施工

- 1 アクアシール500Sは希釈せずそのまま使用してください。
- 2 塗布方法は、原則としてローラーで施工してください。(スプレーで塗装される場合は、霧散しますので周辺の養生はより確実に行ってください。)
- 3 アクアシール500Sは乾燥すると塗布面と未塗布面との区別が付きにくくなります。塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布してください。
- 4 アクアシール500Sを塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度に厚塗りせず2回程度に塗り重ね、所定の量を確実に塗布してください。(スプレーで塗装される場合は、霧散しますので2~4割程度多めの量を塗布してください。)アクアシール500Sは浸透型ですので追っかけ塗りが可能です。
- 5 アクアシール500Sの塗布面は20℃、6時間以上乾燥養生してください。

検査

- 1 完了したアクアシール500Sの塗布面(20℃、48時間以上の乾燥養生後)に水をかけ、撥水状態と30秒から1分以内に水濡れが出ないことを確認してください。
- 2 塗布もれ箇所については、乾燥後に所定の量を再度塗布してください。

※施工にあたっては、必ず施工手順書をご請求ください。ホームページよりプリントアウトも可能です。(http://www.aquaseal.jp)

■施工上の注意事項

●**アクアシールは、コンクリート等の基材に含浸して吸水防止層を形成し、性能を発揮する製品です。その含浸の程度は基材、基材の表面状態により変化することがあります(補修部位等、吸込みの少ない場合は注意が必要)。また塗布した際、稀に風合い変色することがあります。これらを防ぎ機能を十分発揮させるため、事前の試し塗りによる塗布量の決定と仕上がり、効果の確認を必ず実施してください。**

アクアシール500S

- 1 引火性液体ですので、火気および高温物のあるところでは使用しないでください。
- 2 取り扱い中はできるだけ皮ふに触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク、耐油性保護手袋、保護眼鏡、前掛等を着用してください。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。取り扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 3 希釈せずそのまま使用してください。
- 4 気温5℃以下、風速5m/秒以上、降雨、降雪の場合の施工は避けてください。また、施工中に降雨、降雪等にあった場合は施工を中止し、シート養生をして塗装面を保護してください。
- 5 塗布対象面以外の箇所(植物、金属、ガラス、木材、コーキング材等)は、養生等を施し、付着させないようにしてください。
- 6 ガラス面、金属面、プラスチック面等に付着したときは、速やかに除去してください。(固着すると全く除去できなくなる場合がありますので十分に注意してください。)
- 7 塗布方法は、施工部位を考慮して適切なものを使用してください。
- 8 塗装機器、塗装器具等は使用後速やかにシンナー等で洗浄してください。
- 9 アクアシール500Sの塗布後6時間(20℃)は水がかからないように養生してください。(養生時間内に雨水等がかかると白亜化や性能不良を引き起こす原因となる場合がありますので十分に注意してください。)
- 10 本品は、石油・シンナー臭がします。施工にあたっては作業者に注意を促すとともに周辺環境にも留意してください。特に近隣の居住者には施工の前に事前の説明および了承を得るようにしてください。

浸透性吸水防止材 (水性タイプ) アクアシール® 50E



**打放しコンクリート、
モルタル、ブロック等の
吸水防止材です。**

環境と安全に配慮した水性タイプです。

ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆登録
(日塗工登録番号 D01166)



■打放しコンクリート面

工 程	使用材料	塗布量 (kg/m ²)	施工間隔 (20℃)	塗布方法
1	アクアシール50E	0.1~0.12	追っかけ塗り	はけ、ローラー
2	アクアシール50E	0.08~0.1	24時間以上乾燥養生	はけ、ローラー

■用 途

適用基材	標準塗布量
コンクリート、モルタル、セメント系二次製品 等	壁面部 0.18~0.22kg/m ² (約50m ² /10kg缶) 平面部 0.25~0.3kg/m ² (約35m ² /10kg缶)
吸い込みが大きい基材 ALC 素焼きタイル ブロック レンガ 等	壁面部 0.25~0.3kg/m ² (約35m ² /10kg缶)

■種類と性状

品 名	アクアシール50E
成 分	シランエマルジョン (シリコーン乳化物)
外 観	乳白色エマルジョン
比 重	0.98±0.05 (20℃)
臭 気	無臭ないしわずかな特異臭

■適用法規

品 名	アクアシール50E
労働安全法 衛生法	非該当
消 防 法	非危険物

■使用期限

缶ラベルに記載

■施工方法

事前確認

- 1 新築か補修かによって、また基材の種類によって施工の工程、数量や養生等に影響があるので十分に確認してください。(補修部位等、吸い込みの少ない場合は注意が必要)
- 2 アクアシール50Eを塗布した際、稀に風合い変色および樹脂等のうきが発生することがあります。これを防ぐための事前確認および塗布量決定のための試し塗りを必ず実施してください。

前処理

- 1 塗布対象面は、汚れ、油分などを除去し、清浄かつ乾燥した状態にしてください。(含水率目安:ケット水分計6%以下)
- 2 塗布対象面のクラック、ジャンカ、欠損等のある場合は、色合いおよび吸い込みが同程度のモルタル補修材で補修し、乾燥・硬化した状態にしてください。
- 3 非塗布面に対しては必ず養生してください。
- 4 風向き、気温等の影響および塗装の方法により臭気が強く感じられることがありますので臭気対策のための養生を行ってください。

施工

- 1 アクアシール50Eは希釈せずそのまま使用してください。
- 2 塗布方法は、原則としてローラーで施工してください。(スプレーで塗装される場合は、霧散しますので周辺の養生はより確実に行ってください。)
- 3 アクアシール50Eは乾燥すると塗布面と未塗布面との区別が付きにくくなります。塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布してください。
- 4 アクアシール50Eを塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度目を厚塗りし、2回程度に塗り重ね、所定の量を確実に塗布してください。(スプレーで塗装される場合は、霧散しますので2~4割程度多めの量を塗布してください。)アクアシール50Eは浸透型ですので追っかけ塗りが可能です。
- 5 塗装は連続して行ってください。間隔をおくとハジキがでます。
- 6 アクアシール50Eの塗布面は20℃、24時間以上乾燥養生してください。

検査

- 1 完了したアクアシール50Eの塗布面(20℃、72時間以上の乾燥養生後)に水をかけ、撥水状態と30秒から1分以内に水濡れが出ないことを確認してください。基材の種類や塗布量によっては、撥水性の発現に時間がかかることがあります。
- 2 塗布もれ箇所については、乾燥後に所定の量を再度塗布してください。

※施工にあたっては、必ず施工手順書をご請求ください。ホームページよりプリントアウトも可能です。(http://www.aquaseal.jp)

■施工上の注意事項

●**アクアシールは、コンクリート等の基材に含浸して吸水防止層を形成し、性能を発揮する製品です。その含浸の程度は基材、基材の表面状態により変化することがあります(補修部位等、吸い込みの少ない場合は注意が必要)。また塗布した際、稀に風合い変色することがあります。これらを防ぎ機能を十分発揮させるため、事前の試し塗りによる塗布量の決定と仕上がり、効果の確認を必ず実施してください。**

アクアシール50E

- 1 使用する前に缶を振るなどしてよく混ぜてください。
- 2 使用分のみ缶から出して塗布してください。
- 3 取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、マスク、保護眼鏡、保護手袋、前掛等を着用してください。
- 4 気温8℃以下、風速5m/秒以上、降雨、降雪の場合の施工は避けてください。また、施工中に降雨、降雪等があった場合は施工を中止し、シート養生をして塗布面を保護してください。
塗布対象面以外の箇所(植物、金属、ガラス、木材、コーキング材等)は、養生等を施し、付着させないようにしてください。
- 5 ガラス面、金属面、プラスチック面等に付着したときは、速やかに除去してください。(固着すると全く除去できなくなる場合がありますので十分に注意してください。)
- 6 アクアシール50Eの塗布後24時間(20℃)は水がかからないように養生してください。(養生時間内に雨水等がかかると白化や、性能不良を引き起こす原因となる場合がありますので十分に注意してください。)
- 7 床面に使用した場合、滑りやすくなる場合がありますので、十分に注意してください。
- 8 本製品の施工にあたっては多少の臭気と飛散に対して作業者に注意を促すとともに周辺環境にも留意してください。
特に近隣の居住者には施工の前に事前の説明および了承を得るようにしてください。
- 9 冬季などの低温時や高湿時、塗布後2~3日以内に雨に打たれた場合、撥水性の発現が大幅に遅れることがあります。
- 10 改修工事等で、コンクリートの中性化が進行している場合は、撥水性の発現が大幅に遅れることがあります。
- 11 吸い込みの多い素地では吸い込みが収まるまで塗り重ねる必要があります。その際、コンクリートの風合いを損なうことがありますので、必ず事前に試験塗装を行い、確認してください。

■ 荷 姿

アクアシール200S	16ℓ入(石油缶)	40缶(角缶)(1ケース4缶入)
アクアシール500S	16ℓ入(石油缶)	40缶(角缶)(1ケース4缶入)
アクアシール50E	10kg入(石油缶)	—————

■ 取り扱い、保管上の注意事項

アクアシール200S、アクアシール500Sは吸入すると有機溶剤中毒その他の健康障害を起こす恐れがあります。取り扱いには下記の注意事項を必ず守ってください。

- 必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク、耐油性保護手袋、保護眼鏡、前掛等を着用してください。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにしてください。取り扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 取り扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- シンナー遊び、汚れ落とし等本来の用途以外に使用しないでください。
- 容器は転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な取扱いはしないでください。
- 目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所に安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 一定の場所を定め子供の手の届かないところに保管してください。
- 容器は直射日光を避け、火気を厳禁とし、密栓して通風の良い冷暗所に保管してください。また強酸化物等とも一緒に置かないでください。
- 凍結防止のため0℃以上で保管してください。
- 容器からこぼれた場合には、必ず乾燥砂、土、おがくず、ウエス、ペーパータオル等に吸収させて、密閉できる空容器に回収してください。
- 本品が付着したウエス等は廃棄するまで必ず密閉できる空容器に回収してください。
- 容器、機器等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないようにしてください。
- 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」および関係する法律にしたがって処理を行うか、専門業者に処理を委託してください。
- 廃塗料などを焼却処理する場合には「廃棄物の処理および清掃に関する法律」等関連する法規に従って処理してください。
- 中身を使い切ってから廃棄してください。
- 付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処理してください。
- 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意してください。

これら材料の安全な取り扱いにあたっては使用される材料に該当する安全データシート(SDS)を必ずご参照ください。

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また注意事項は通常の取り扱いを対象としており、特殊な取り扱いの場合には、新たに用途、方法に適した安全策を実施のうえ、お取り扱い願います。



本社 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)6288 FAX.06(6308)3618
 東京支店 〒135-0031 東京都江東区佐賀1丁目18番8号 TEL.03(3642)8431 FAX.03(3643)5560
 名古屋支店 〒452-0962 愛知県清須市春日流77番地1 TEL.052(409)8711 FAX.052(409)8716
 大阪支店 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)6281 FAX.06(6308)3512
 エンジン部 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)4011 FAX.06(6308)6416
 福岡営業所 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目8番18号 TEL.092(641)2025 FAX.092(641)4022
 札幌営業所 〒061-3244 石狩市新港南3丁目704番地8 TEL.0133(76)6177 FAX.0133(76)6178
 千葉営業所 〒270-1403 千葉県白井市河原木戸場364番地13 TEL.047(492)1901 FAX.047(492)1903
 神奈川営業所 〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名2507番地10 TEL.042(764)4835 FAX.042(764)4836
 滋賀営業所 〒524-0051 滋賀県守山市三宅町561番地 TEL.077(583)2234 FAX.077(583)3964
 姫路営業所 〒670-0073 兵庫県姫路市御立中5丁目12番22号 TEL.079(299)5959 FAX.079(299)5960
 広島営業所 〒733-0833 広島市西区商工センター4丁目5番15号 TEL.082(277)6464 FAX.082(277)6461

本社工場 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号 TEL.06(6308)6281 FAX.06(6308)3512
 滋賀工場 〒524-0051 滋賀県守山市三宅町561番地 TEL.077(583)2234 FAX.077(583)3964

アクアシール会 <https://www.aquaseal.jp>



アクアシール会



製品の規格及び仕様は改良等のため
予告なく変更する場合があります。

50-1187

'21.3.11版 5,000S